

## 第4学年「国語」学習指導案

授業者 横内 智子

2月22日(木) 3階B室 9:00~9:40

1 単元名 ことばをつなげて

2 単元について

単元	○友だちのことばをきっかけに、想像を広げて、4人でことばをつなげて連詩を作る。
目標	○できた詩を読み合っ、おもしろさに気づき、互いに伝え合う。

本クラスは、4月入学1名、9月入学3名、計4名の帰国児童教育学級である。シンガポール、アメリカ、ベルギーで、4年から6年間近く過ごし、現地では、現地校またはインターナショナルスクールに通い、話す言語はいずれも英語であった。日本での学校生活はみな初めての経験である。どの子も日常会話はさほど困らないが、時には日本語での表し方が思い浮かばずことばに詰まってしまうたり、英語まじりの会話になってしまったりすることがある。学習でも、自分の考えをまとめたり話したりするのに、ことばの少なさから難しさを感じる場面もあり、語彙力をつけることは大きな課題の一つである。そのため個人では、漢字の学習でその漢字を使ったことばを集め、意味や使い方のわからないことばの意味を辞書で調べる、そのことばを使って文を作るなどを毎日の家庭学習で積み重ねている。また、教室では、ことば遊び歌や「のはらうた」をはじめとする詩の音読、その替え歌づくり、様子を表すことばや気持ちを表すことばに注目して集めるなど、ことばを耕し広げる学習を続けている。今回は、感じ方や考え方の違う4人が協働して一つの詩を作る「連詩づくり」という活動を設定した。4人で連詩をつくる過程で、友達の書いたことばや表現の中に、一人では思いつかないような表現や想像力の広がりを感じ、そこからさらに自分の想像を広げて、よりふさわしいことばを吟味しながらことばをつなげるという作業を経験してほしいと考えた。その活動を通して、子どもがことばへの感度をみがいていくことを期待している。また、できあがった詩を読んで話し合う場面では、お互いの表現の工夫やおもしろさを見つけて適切に伝え合い、友達と学ぶ楽しさを味わってほしいと考えている。

### 3 学習指導計画(4時間目/全5時間)

- (1) 連詩の特徴を知り、クラス4人でことばをつないで一つの連詩を作ってみる。(1時間)
- (2) 詩に表したい題材を考え、それから連想できることばや表現、出来事を考えて書き出す。(1時間)
- (3) ことばをつなげて連詩を作る。
  - ・1行書いたら次の人が書く、を繰り返して、4人で一つの詩を作り、できた詩を読み合って交流する。(1時間)
  - ・数行の連をつなげて、4人で一つの詩を作り、できた詩を読み合っ、交流する。(本時)
- (4) 連詩のおもしろさについて、気づいたことをまとめる。(1時間)

### 4 本時の学習について

#### (1) 本時のねらい

4人で作った連詩を読み合っ、おもしろいと思ったことばや表現に気づき、伝え合う。

#### (2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 前時に作った連詩を発表し合う。	○それぞれの詩の題名を決めた人が読む。
2 一つひとつの連詩を読み合っ、交流する。	○書いた人の工夫や、おもしろいことば・表現に気づき、それを伝え合う。 ○ことばとことばのつながりから、書いた人がどのように想像を広げたのかを考えさせたい。
3 本時を振り返る。	○前時の振り返りと比べる。